



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和 2 年 12 月 17 日

家庭で 10 年以上受動喫煙にさらされた若者はむし歯になりやすい！

◆発表のポイント

- ・ 受動喫煙の曝露がある子供の歯（乳歯）はむし歯になりやすいことが明らかになっています。
- ・ しかしながら、大人の歯（永久歯）が生えそろった若者を対象とし、家庭での長期間の受動喫煙の曝露に注目した調査はほとんどありませんでした。
- ・ 今回の調査で、家庭での受動喫煙の曝露が 10 年以上の大学生は、曝露がない者と比較して 1.5 倍むし歯になりやすいことが明らかになりました。

岡山大学病院予防歯科の佐保輝医員、同大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の森田学教授、同大学保健管理センターの岩崎良章教授らの共同研究グループは、家庭での受動喫煙の曝露期間が 10 年以上の大学生は家庭での受動喫煙の曝露がない大学生と比較して、1.5 倍むし歯になりやすいことを明らかにしました。この研究成果は 11 月 20 日、スイスの学術雑誌「*International Journal of Environmental Research and Public Health*」に掲載されました。

2018 年に健康増進法が改正され、2020 年 4 月から多くの施設で屋内原則禁煙となり、20 歳未満の者の喫煙エリアへの立入が禁止されるようになっていきます。しかしながら、家庭における受動喫煙の曝露は制御困難です。この調査は家庭での禁煙を推進することの意義を強調するものになりました。

◆研究者からのひとこと

たばこは喫煙者の健康を奪うだけでなく、周囲の人の健康も奪います。現在喫煙中の方は禁煙に向かって、そうでない方もどのようにしたら受動喫煙曝露のリスクを減らせるか、今一度考えてみませんか？



佐保医員

■発表内容

<現状>

2020 年 4 月から多くの施設で屋内原則禁煙となり、20 歳未満の者の喫煙エリアへの立入が禁止されるようになりましたが、家庭における受動喫煙の曝露は制御困難であるのが現状です。家庭での受動喫煙の曝露がある子供の歯（乳歯）はむし歯になりやすいことが明らかになっていますが、大人の歯（永久歯）が生えそろった若者を対象とし、家庭での長期間の受動喫煙の曝露に注目した調査はほとんどありませんでした。

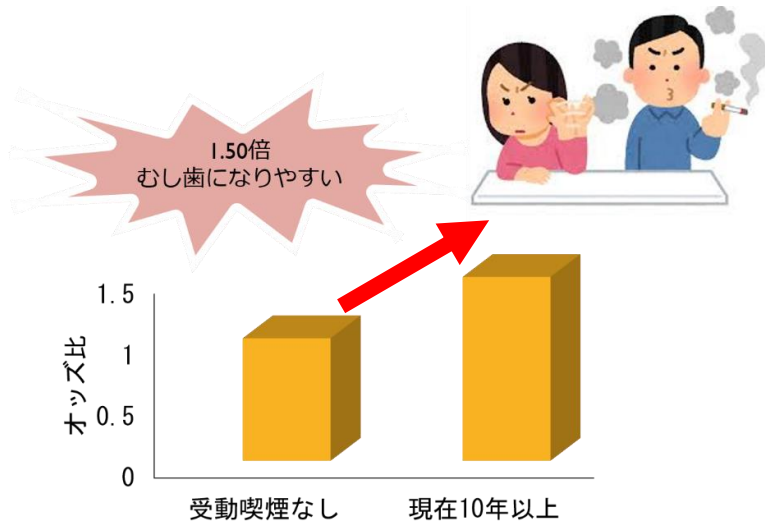
<研究成果の内容>

岡山大学病院予防歯科の佐保医員、同大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の森田教授、



PRESS RELEASE

同大学保健管理センターの岩崎教授らの研究グループは、家庭での受動喫煙の曝露期間が10年以上の大学生は家庭での受動喫煙の曝露がない大学生と比較して、1.5倍むし歯になりやすいことを明らかにしました。



家庭での受動喫煙曝露

<社会的な意義>

家庭での受動喫煙曝露を防ぐことは、全身の健康を守るだけでなくむし歯の予防にもつながります。この調査は、家庭での禁煙を推進することの意義を強調するものになりました。

■論文情報

論文名 : Association between Household Exposure to Secondhand Smoke and Dental Caries among Japanese Young Adults: A Cross-Sectional Study

掲載紙 : *International Journal of Environmental Research and Public Health*

著者 : Saho H, Taniguchi-Tabata A, Ekuni D, Yokoi A, Kataoka K, Fukuhara D, Toyama N, Islam MM, Sawada N, Nakashima Y, Nakahara M, Deguchi J, Uchida-Fukuhara Y, Yoneda T, Iwasaki Y, Morita M.

DOI : 10.3390/ijerph17228623.

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（歯）

教授 森田 学

（電話番号）086-235-6712 （FAX）086-235-6714



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。